

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	前回の外部評価をふまえ、開設時からの理念を新しく作りなおしました。職員がどんな介護をしたいか、どんな施設にしたいかを考え、自身のケアの仕方を振り返る良い機会になりました。	理念は「目標とするケア」を職員で話し合い、わかりやすい言葉で作成された。そして、利用者の協力下、大きく文字で表現しホールに掲示されている。自ら作成した理念は、ケアの課題や日頃のサービスの振り返りの視点となり、職員一人ひとりのサービスの取り組みにつながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや、隣接する障害者授産施設の催しに参加しています。ボランティアによる行事や生け花教室に参加しています。	散歩では近隣住民と挨拶をかわし、顔馴染になったスーパーでは声をかけられることもある。事業所協で行われるシティマラソンの応援、自治体開催の祭りの見学、また、民生委員による生け花教室には併設事業所の利用者と一緒に活動に参加するなど、地域と関わりながらの生活が送られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所申し込みや相談の際には応じる用意があります。認知症の方を介護する大変さを傾聴し助言など行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、民生委員、地域包括支援センターなどに出席していただき、特養と合同で開催しています。事業所の状況報告について意見を頂戴しています。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、事業所からの状況報告と地域情報を得ることが主な内容である。議事録は事業所の報告の綴りとなっており、会議情報は口頭で職員に報告されている。地域メンバーからの情報、検討事項の記録はないが、管理者は地域情報を取り入れ事業所運営に生かす試みを行おうとしている。	運営推進会議では事業所への要望等が出されないことから、議事録は事業所の状況報告のみで、検討事項のないものになっている。今後、会議で得た地域情報を生かした取り組みを次会議に報告するなど、記録を残していくことで新たな話し合いがされ、地域との相乗効果によるサービス提供の実践、地域に根差したサービスの実現が図られるのではないかと思います。会議の意義、重要性を意識する基盤の作り上げから地域密着型のより良いサービス向上につながっていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて市役所の担当課や包括支援センターに連絡を取り合い、相談に乗っていただいています。	事業所には包括支援センターが併設されており、市町村担当者とは常時連絡を取ることが可能であり協力体制はできている。介護保険制度上の疑問や福祉用具の相談など、必要時は連絡を行い情報共有を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームが5階にあり、安全対策のため施錠をしています。ご家族にも入所申し込みの段階から説明しご理解いただいています。	職員には法人作成の身体拘束防止マニュアルに基づいた形で、管理者による指導がおこなわれている。今年度より法人主宰の身体拘束防止の研修が実施されるとのことである。死角になっている玄関の施錠についてはサービス契約時に家族に承諾を得ており、さらに利用者の状況に応じた対応を図るよう工夫している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待関連の研修に参加しています。また法人の虐待マニュアルを用いてカンファレンスで研修会を行っています。	新潟市で実施された虐待防止研修の資料を使いながら管理者による研修を実施しており、また、自己のケアの振り返り、気づきの機会となるように“不適切ケアチェック表”による定期チェックを各自が実施しており、虐待防止を意識づけ、防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて包括支援センターに相談しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、不安や疑問がないか確認しながら時間をかけて説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入口に意見箱を設置しています。ご家族の面会の際には近況報告とともにご意見を伺うようにしています。またアンケートなども活用しています。	家族の意見・要望は、面会または電話での近況報告とともに確認している。また、意見箱や年1回実施するアンケートも活用している。利用者の要望等は、主に日常ケアの中から得るように心がけており、得た情報はカンファレンスや休憩時での話し合いで共有され、検討しながら支援に取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から何でも話せる環境づくりを心掛けています。毎月のカンファレンスなどで意見を出し合っています。	毎月のカンファレンスは、運営・ケアに対しての気づきやアイデアを職員から出してもらい、話し合う機会を設けている。検討が必要な内容は十分話し合い、ケアに取り入れている。管理者は日頃から職員の意見を聞き、話し合いの姿勢を持つように心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすくなるよう業務の見直しを適宜行っています。お互いの仕事についてサポートしたり、問題点や悩みを聞きながら改善できるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりがスキルアップが図れるよう資格取得の機会を大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の参加や実習の受け入れ、情報交換の場を設けています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人の不安や要望をゆっくりと傾聴し思いを受け止めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり、これまでの経緯や苦勞についてゆっくりお話を伺うようにしています。またご家族の思いや要望を聞き、当施設としてどのような事ができるか丁寧に説明していくことで良い関係を築ける様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族、その他周囲から情報を収集してニーズの把握に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者にとっての生活の場であるということをお忘れず、職員がともに生活しているという意識でケアにあたっています。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や状態の変化時にはご家族に報告し話し合いの場を持っています。また園の祭りや敬老会などのイベント時には参加を呼び掛けています。	入所時やケアプランの説明時に家族の役割を丁寧に説明し、ともに支えていくことの重要性を理解してもらうようにしている。また行事への家族参加の呼びかけ、随時の近況報告、家族変化に伴う協力体制についての相談・対応など、家族と一緒に考え支えていく関係を築きながら絆を大切にしたい支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力していただいて、親族や知人との交流を継続しています。外出や外泊もできる限り続けてもらえるようお願いしています。	友人の面会の受け入れ、事業所外美容院の利用、外泊、墓参りなど、家族の意見、提案、協力を得ながら、またケアプランに反映させるなどして、利用者の今までの生活の中での馴染みの関わりを継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者ひとりひとりの性格を把握しながら食事の席や外出時のメンバーの配慮をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族からの相談に応じています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、表情や会話から思いを探り把握に努めています。必要に応じてカンファレンスで情報共有し、ケアプランに反映させています。	日々の生活、利用者との会話、ケア、表情の中から「家族と旅行に行きたい」など、一人ひとりの思いを聞き取り、暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、入所前に利用していたサービス担当者や担当介護支援専門員から聞き取りを行い把握に努めています。可能であれば施設の退所カンファレンスにも参加させていただいています。	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過把握のために、入所前に施設の退所カンファレンスに職員も参加し、本人、家族から聞き取りを行っている。また、友人の面会時にも家族の了解を得て聞き取りを行い、スタッフで情報を共有できるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活ペースを大切にしながら支援をしています。日々の生活から現状把握をして記録やカンファレンスにて情報共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当利用者のケアプラン実践状況を毎月介護経過記録に記入しています。3か月ごとにカンファレンス時にモニタリングを行っています。	定期的に家族、本人とカンファレンスを設けて介護計画を確認している。3ヶ月ごとに限らず、利用者の状態が変化したときは、家族に連絡して来てもらって話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子については生活記録に、ケアプランの実践状況は介護経過記録に記入にて情報の共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉用具や併設施設の設備を活用し必要なサービスが適切に提供できるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する障害者授産施設のイベントへの参加や民生委員ボランティアの受け入れなどを行っています。また運営推進会議を活用し地元知見者や包括、民生委員などからアドバイスをいただいております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ病院は本人、家族の希望に応じています。施設の協力病院以外を主治医とする場合は、ご家族に受診を依頼し、必要に応じて付き添いや手紙による情報提供をしています。	現在の利用者全員のかかりつけ医が協力病院となっており、月1回の定期健診はスタッフで対応している。整形外科、眼科等専門医への受診が必要な時は家族に対応してもらい、医師へは手紙による情報提供を行い、薬や処置の変更は家族を介して伝えてもらっている。緊急時や家族の対応が不可能な時には職員が代行するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて施設の協力病院の看護師に相談したり併設施設の看護師に助言をいただきながら支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院のケースワーカーや看護師と情報交換をして、退院に向けて支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の当施設としてできないことは、入所相談時点から説明しています。また契約時にも説明して同意を得ています。状態の変化時は本人、家族と話し合い出来る限り希望に沿ったケアを行えるよう支援しています。	入所相談時から、退去基準は入浴困難、治療食、医療依存度が高いこと、看取りは行っていないことを説明して同意を得ている。カンファレンスの都度状況が変わった時、家族に報告し情報を共有している。早い段階からスムーズに次の施設へ移行できるよう家族の状況に応じながら相談、対応、支援に努めている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設施設の看護師や法人の病院などで定期的に研修会が開催されており、必要に応じて参加しています。また独自でもマニュアルなどで確認しています。	AED研修を年1回開催し、また、法人の全体研修として、看護師が作成した「感染症発生時の対応テスト」を行い、マニュアルに沿って確認するなど、すべての職員が応急手当や初期対応の訓練を実践訓練している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと、施設全体で消防訓練を行っています。また独自でも非常食の点検や利用者との避難経路の確認を行っています。	施設全体で年2回、昼夜を想定した消防訓練を実施している。職員が参加し、避難経路を確認し行動できるようにしている。新潟市全市一斉地震対応訓練時の情報伝達訓練では、にいがた防災メールなどで職員の意識づけを行っている。施設が5階にあり、水害、自身の際は避難所になることが想定されるため、利用者、職員、近隣住民分の非常食も常備している。職員の連絡網確認も行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳やプライバシーを損ねない会話や対応を心掛けています。	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境が違うことを職員に意識してもらい、個別ケアであることを心がけている。利用者に対して「ちゃん」づけで呼ばない、遠くから大声で呼ばず音量に配慮するなど、一線を越えない言葉使いの必要性をカンファレンスでその都度伝えられている。一部職員には管理者から個別に指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者の「～したい」という思いを大切にしています。アンケートを活用したりと希望を表現しやすい環境作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな日課はありますが利用者の体調や気分を配慮し、利用者に合わせて支援ができるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は自身で選んでもらったり、散髪の時期も本人と話し合いながら決めています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食材を買い出しに行ったり、出来る方には食材を切ったりなどお手伝いいただいています。メニューも旬の物を取り入れたイベントに沿った献立にしたりと工夫をしています。	食事が楽しみになるように旬の食材を取り入れて行事食の献立にしている。誕生会では定例になっている寿司の配達、利用者の嗜好調査で外食に行く、外出の際にお弁当を購入するなど、多くの工夫がなされている。食事の片づけもできる利用者と職員が一緒に行うなど、その人のできる力を引き出すよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調や嚥下能力に合わせて食事形態や量を工夫し、摂取量もチェック表にて把握しています。必要な方には栄養補助食品も活用しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしています。必要な方には訪問歯科の受診支援を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて利用者の一人ひとりの排泄パターンを把握したり、尿意・便意のサインを見逃さないようにしています。また昼夜で排泄用品を変えて失敗を減らし、気持ちよく排泄できるよう支援しています。	介助が必要な方に排泄チェック表を用いて一人ひとりの排泄パターンを把握して、尿意・便意のサインを見逃さないように工夫している。その結果、日中トイレで排泄を促しパッドの失敗がないとのことである。夜間もトイレ誘導している方、良眠を促すために許容量の多いパッドを使用する方、トイレの回数が頻回の方の場合にはポータブルトイレでの排泄を促すなど、その人の能力に合わせて自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から乳製品や食物繊維が多く取れるような食事に努めています。便秘傾向の方には漢方薬や下剤にて排便コントロールしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は利用者の体調や希望に沿って行うようにしています。入浴剤を使ってくつろいでいただいたり時々気分転換に大浴場へ行き銭湯気分を味わっています。	「入浴を希望しないときは無理強いしなくてもよい」ことで、入浴日を本人に管理してもらい、本人が入りたい時に職員が主に午後の明るい時間に合せて入浴介助を行っている。気分転換に併設されている他事業所の一般浴室へ銭湯気分で行く、好みの入浴剤を使用する、柚湯に入るなど、入浴が楽しい時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で使い慣れた寝具をしようしたり、室温や照明の明るさも本人に合わせて気持ちよく眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人台帳に薬剤情報提供書を添付しいつでも目を通せるようにしています。また全てとはいきませんが主病に対する薬の名前、用法・用量は概ね理解しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	余暇活動はみんなで楽しむものと、本や折り紙など個々の好みに合わせたものを行っています。また調理や裁縫、たたみ物など得意分野を活かしたものを取り入れています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に近隣のスーパーに買い物に行ったり、季節に合わせた外出行事を計画しています。また天気良ければ散歩をしたりドライブを楽しみます。また家族の協力のもと、外食、外泊や墓参り、旅行ができるよう支援しています。	花見、信濃川遊覧船、白根大風合戦、毒狩りなど季節に合った行事を積極的に行い、本人の出身地の近くをドライブするなど、法人内の送迎担当職員に協力してもらって戸外に出かけている。家族の協力の下、外泊や花参り、旅行ができるよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて、自分で財布や所持金の管理をお願いしています。外出時に買い物する際は、支払いの支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年賀状をご家族に出しています。また希望があれば、ご家族に電話をかける支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には利用者が作った作品を展示したり、外出時の写真を掲示しています。入口には季節ごとの飾りつけをしています。また室温・湿度に配慮したり、テレビの音や職員の動き回る音にも気を付けながら、居心地よく過ごせる工夫をしています。	入口にはボランティア(生け花クラブ)の方が生けた花が飾られている。不快や混乱をまねくような刺激がないように、職員は走らない、作業音を立てない、遠くから声をかけないなどの約束事が図られている。トイレ掃除も毎朝行なわれ、臭いへの配慮にも徹底している。居室ホール以外にも畳コーナー、浴室前の掃き出し窓にはソファが置かれ、ゆったりと寛いでもらっている。また、1人になれる空間を設けるなど、居心地よく過ごせるような工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にはソファを置いてゆったり過ごせる工夫をしています。また窓際にもソファを置いて、ひとりでゆっくり外を眺められるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具は使い慣れた物や本人の好みの物を持参していただいています。配置も本人や家族と相談しながら居心地よく過ごせるようにしています。	居室は利用者本人と家族と相談しながら、鏡台、仏壇、整理ダンスなど使い慣れた物や好みの物を配置している。施設が5階にあり、各部屋から市内を一望でき見晴らしが良いものとなっている。信濃川に面した部屋では夏の花火を楽しむことができ、明るい居心地の良い居室になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	立位の不安定な方にはベッドに手すりを設置して安全に立ち上がれるようにしています。またトイレや自室がわからなくなる方のために張り紙や表札を掲示しています。		